



# 生徒指導だより

令和5年10月2日  
岐阜北高等学校生徒指導部

## 1. 交通事故について

# 事故多発 注意

下記の表は、本校の交通事故月別発生件数です。

今年度は9月末現在で26件、前年同時期より6件増、前年一年間の発生件数に並びました。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R5	6	9	4	3	2	2							26
R4	3	4	5	3	3	2	2	3	0	0	0	1	26
R3	2	2	2	1	1	0	1	3	5	1	1	0	19
R2	0	0	6	3	2	1	3	2	2	2	2	1	24

事故が起こる主な原因は、①安全不確認(急な進路変更)、②一時不停止、③歩道上における歩行者との接触の3つです。たとえば、自転車で車道を走行中、駐車中の自動車などを避けようとして、後方を十分に確認しないまま右側にふくらんで進行したため、後方を進行する自動車と接触する場合、このような安全確認が不十分なまま進路変更したことが原因で自転車事故が起きることはとても多いです。

また、一時停止の標識や標示のある場所では、自転車も必ず一時停止をしなければなりません。一時不停止が原因で出会い頭の事故が起きてしまうことも多いです。一時停止には、相手に自分を確認させるという意味もあります。「一時停止をしなくても大丈夫だろう」と軽信せず、交差点の手前では一度止まって左右を確認することが大切です。

事故を防ぐために安全確認を怠らないことが大前提ですが、万一事故に遭った時の適切な対応についても確認しておきましょう。事故にあったとき、思わぬアクシデントにどう対応したらよいか分からず、以下の①~③のNG行動を取ってしまいがちです。①連絡先を交換しない、②警察を呼ばない、③ケガを軽視する、の3つが過去に本校であったNG行動の例です。**相手側と連絡先(住所、氏名、連絡先といった相手側の情報)を必ず交換してください。**事故現場では過失割合の判断など難しいことが考えられるため、必要最低限の情報を交換しておくことで安心できます。そして②について、道路交通法上、自転車も車両として扱われます。基本的な対応は自動車事故の場合と同じで、**自分が被害者・加害者どちらの立場であっても、事故が発生したら必ず運転を停止して事故対応を行う必要があります。**警察への事故発生報告は義務となっているため、どんなに軽い事故であっても必ず通報する必要があります。最後に、どんなに軽いケガであっても、病院に行かないのはNGです。事故の衝撃は目に見えないところで大きな損傷を受けていることが考えられます。特に軽い事故の場合、そのときは何もなく見えても、後々ケガが発覚するといった問題が見つかることもあるでしょう。

## 2. 「命を守るプロジェクト」について

### ここから WEAR HELMET ヘルメット着用



警視庁HPから2018~2022年の5年間に、自転車乗車中に交通事故で死亡した人数をまとめると右表になります。四半期ごとに比較すると、これからの10月~12月がもっとも多いという結果でした。この理由としては、「夏季と比べ日の入りが早くなり、視界が悪くなる薄暮の時間帯が帰宅時刻や買い物など人出が増える時間帯と重なる」ことが考えられます。本校としてもヘルメット着用とともに、早めのライト点灯や反射材の利用など、今後ますますの交通安全啓発が必要です。

4月施行の改正道路交通法で、自転車利用者のヘルメット着用が全年齢の努力義務となりました。7月に警察当局が実施した全国調査結果によるとヘルメット着用率は13.5%、岐阜県は11.4%でした。昨年度に引き続き、北高祭【文化の部】にて交通ルール遵守の徹底と自転車ヘルメット着用推進を目的とした交通安全普及啓発活動「命を守るプロジェクト」を実施しました。本校の着用率は11.38%(4月調べ)、啓発活動を重ねることで今年度末には15%まで上げることを目標としています。

当日はヘルメットの展示会も行い、合計48個の予約販売をしました。**北斗会(同窓会)から生徒向けに2,000円を補助していただけます。なお、販売業者の協賛もある価格帯での販売は、今後も各店舗で継続していただきます。**希望する場合は、ヘルメットの種類、価格、販売店については、9月1日(金)配信のClassi【生徒指導部より】自転車乗車用ヘルメットの展示・販売についての別添を参照してください。ご質問などございましたら生徒指導室までお願いします。

**DON'T MISS IT!**

	人数	四半期合計
4月	162	470
5月	141	
6月	167	
7月	143	509
8月	171	
9月	195	
10月	184	575
11月	183	
12月	208	
1月	154	451
2月	154	
3月	143	

